

## 米国 ワシントン州のリンゴ収穫見通し

FRUITNET 2023年8月9日

ワシントン州果樹協会(WSTFA)は、2023年のワシントン州の生鮮リンゴの収穫量予測を、1億3,400万箱強(18kg/箱)の豊作になると発表した。

これは、2022年の1億430万箱に対して28.8%の増加となる。2022年は、春が非常に寒く、開花中に雪が降って受粉が阻害されたため、通常よりもかなり減収した。

今年は、温暖な気候により、生産者は過去6年間の平均出荷量にかなり近い(5%上回る)健全な作柄を得ることができた。この通常の水準への回復は、サイズ分布が良好で、すべての品種で高品質が期待されるという生産者の報告にも表れている。この予測はまた、引き続きハニークリस्प、アンブロシア、エンヴィイ、コズミッククリस्पなどの品種への多様化の傾向を示しており、この4品種だけで予想出荷量の4分の1以上を占めている。

WSTFAのジョン・デバニー会長は、「今年は、出荷量が通常に近い水準で、果実の品質が良いため、期待が大きい。穏やかな春と暖かい初夏はほぼ完璧な生育条件であったので、国内外の取引先に対し、サイズ、色をはじめ、全体的に良好な品質を示せるだろう。収穫は今始まったばかりであり、当協会の生産者達は、州内、国内、さらに世界中の消費者に喜んでもらえる素晴らしい収穫を楽しみにしている。」と述べた。

同協会の予測は、人気のある5つの品種の堅調な出荷量を示している。最も多いガラが収穫量の19.8%を占めると見込まれ、レッドデリシャスは13%、ハニークリस्पが14.6%、グラニースミスが13.8%、ふじが11.7%と続く。権利の関係でワシントン州でのみ栽培されているコズミッククリस्पは、引き続き全体に占める割合が増加し、収穫量の5.9%を占める。これは、多様で拡大する顧客層に合わせた同州のリンゴ生産の多様化の進展を反映している。

リンゴはワシントン州の経済に不可欠であり、生産額において主要な農産物である。リンゴは、2021年の州の農業総生産額の21%を占めた。2022年には収穫量の20%が輸出量されたが、これは全体的な生産量の減少により、5年平均の28%より少なかった。

有機リンゴ市場は成長を続けており、ワシントン州は有機リンゴの生産でも全米をリードしている。2023年の有機リンゴの出荷量は2,100万箱、すなわち全体の15.7%と予測される。すべての有機生産物が有機として梱包・販売されるわけではなく、同協会の会員は常に新鮮で健康的なリンゴを提供するための新しい戦略と技術に取り組んでいることに留意すべきである。

デバニー会長は、「当協会の生産者らは消費者の需要を満たす長い伝統を持っており、全国の有機リンゴの93%以上を生産することでそれを再び証明している」と付け加えた。

ワシントン州農業局のデレク・サンディソン局長は、2023年に生産者らが力強く良好な作柄で不作から回復したことは、同州にとって、また世界の消費者にとって素晴らしいことだと述べた。

同局長は、「さらに重要なことは、穏やかな天候のおかげで、リンゴの品質が非常に高いことである。リンゴは、世界の隅々に届くワシントン州の名刺のようなものである。今年、我々は文字通り最高の作物を出荷しており、それは我が州の経済、労働者、さらに生産者にとって良いことだ」と述べた。

この予測は、WSTFAの会員の調査に基づいており、最終的に梱包されて生鮮市場で販売されるリンゴの総量についての最善の推定値を示している(加工に仕向ける量を含まない)。リンゴの収穫は通常8月に始まり11月まで続くため、この予測はまだ今後数ヶ月の様々な天候に依存するものであり、最終的な出荷量が影響を受ける可能性がある。

執筆者: リアム・オキャラハン